

# 大阪へのスポーツ移入とその発展について（第1報）

—戦前の旧制中学校を窓口として—

田 中 讓\*・新 野 守\*\*

## On the introduction of sports to Osaka and subsequent development (Part 1)

-With a focus on the pre-war old system junior high school-

TANAKA Yuzuru\*

SHINNO Mamoru\*\*

### Abstract

This study found that Osaka has contributed greatly to the development of sports in Japan, but has not been recognized accordingly.

Sports in the foreign settlement not only school were introduced to Osaka via combat games and union athletic meetings, and began to develop into national tournaments held by the newspaper companies. Osaka has contributed to the development of sports in Japan through construction of school swimming pools, holding national sport conventions and a variety of new initiatives.

**Keywords** : old system middle school, foreign settlement, national convention,  
newspaper companies

キーワード : 旧制中学生, 外国人居留地, 全国大会, 新聞社

### 1. はじめに

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定した。この決定で、日本のオリンピック開催回数は、幻に終わった1940年の大会を含めると夏季オリンピック3回、冬季

---

平成25年12月12日 原稿受理

\*大阪産業大学 人間環境学部スポーツ健康学科教授

\*\*関西大学 特任体育講師

オリンピック3回、計6回を数え、これはアメリカの8回に次ぐものである。つまり、日本はスポーツ大会開催を通して、世界のスポーツ界にアメリカに次ぐ貢献をしているといえる。

一方、国内ではスポーツが移入された明治の初期以降、スポーツは学生を中心に定着、発展してきた。そして、オリンピックのような世界的な国際大会の開催を決定するまでに約70年、実現まで約100年の年月が必要であった。これは、スポーツを楽しむ人々が学生から一般大衆に拡大し、定着するまでに必要であった時間といえる。その中で、大阪は日本のスポーツの定着発展に大きく貢献してきたが、それについての文献は、『大阪スポーツ史—大正昭和初期—』<sup>1)</sup>と『なにわのミニスポーツ史』<sup>2)</sup>の2冊にとどまるのみで、その成果に比べると少ない。この原因は、日本のスポーツ史に関する書物の多くは東京の視点から描かれ、大阪の貢献が取り上げられていないことにある。その一例として、『激動の昭和スポーツ史⑧テニス』<sup>3)</sup>では、南甲子園運動場に103面のテニスコートが設置されるほどの関西テニス界の盛況ぶりについての記述は、全162頁中わずか16字×43行という1ページにも満たないものである。

本論はその不足を補い、スポーツ活動の中心となった学生、とりわけ男子中学生の活躍に焦点を当て、大阪が日本のスポーツの発展に貢献したことについて述べたものである。

## 2. 男子中学生の活躍

明治期は、西欧の文化であるスポーツを日本に移入した揺籃期であり、陸上競技、漕艇、野球が三大スポーツであった<sup>4) 5)</sup>。大正期から昭和初期にかけて他のスポーツも盛んにな

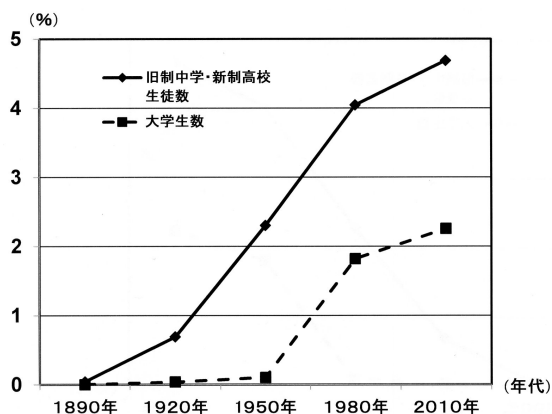
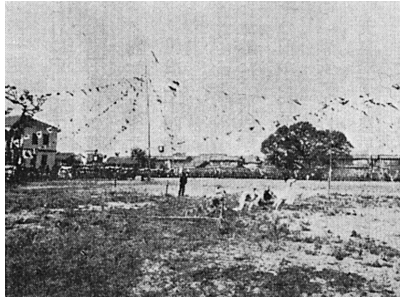


図1. 戦前からの中学生・大学生の全人口に占める割合

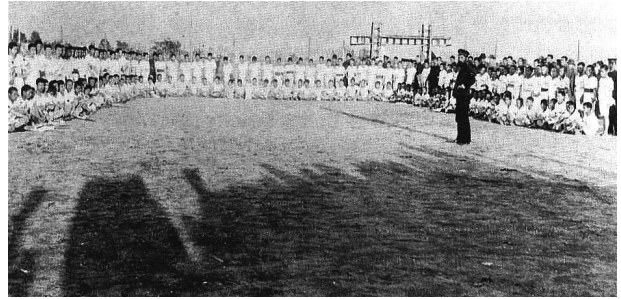
るとともに、女性が積極的にスポーツに取り組み始め、さらに、海外での活躍も見られるようになり、スポーツの定着期といえることができる。その中でスポーツを楽しむことができたのは、図1に示すように、人口の1%に満たない中等学校以上に進学した学生が主体であった。

大阪で最初の公立中学校は、1886(明19)年に創設された大阪府第一番中学校であるが、その前身は、1873(明6)年難波御堂に創立された欧学校にある。そ

大阪へのスポーツ移入とその発展について（第1報）一戦前の旧制中学校を窓口として―（田中・新野）



「当時の運動会のスナップ」  
（出所：『北野百年史』より）



「一中（北野中学）の参加があった三中（八尾中学）の  
第1回運動会（1895（明28）年）」  
（出所：『八尾高校百年史』より）

して、1877（明10）年に中之島に新校舎を建設し、大阪府第一番中学校となる。その後は一時私立や師範学校の別科となるが北野中学校となり、校舎を堂島、北野芝田町と移転しながら現在の北野高校になる<sup>6)</sup>。

北野中学のスポーツの歴史は、大阪の学生スポーツの変遷といっても過言ではない。そこで、北野中学校から始まる戦前の中学生の活躍を中心に紹介し、その後各スポーツの移入と発展について述べていくことにした。

なお、表1に公立旧制中学校の変遷を、表2に各種スポーツの大阪への移入と発展の概要を示した。

### （1）学生スポーツの始まりは北野中学校から

1883（明16）年6月、東京大学と予備門合同で行われた第1回運動会<sup>7)</sup>に遅れること6年後の1889（明22）年に、大阪尋常中学校（現、北野高校）の新校舎が堂島に建てられたことを記念して落成記念運動会が開催された<sup>8)</sup>。これが大阪最初の陸上競技大会といえる。「徒競走、幅跳び、高跳び、旗拾、戴囊（たいのう）、人馬競走」等が行われた。運動会はこれ以降春・秋の2回開催され多数の観衆を集め、運動会観戦が当時の人々の娯楽となるとともに、エリート中学生の婿選びの場になっていたともいわれている。

次いで1894（明27）年に第二（現、三国丘高校）、第三（現、八尾高校）、第四（現、茨木高校）中学が創設された。1895（明28）年には、三中の運動会に一中が参加する交歓会も行われ、飛び入りで競技に参加する生徒も見られるようになった<sup>9)</sup>。

#### ①陸上競技

運動会交歓会を契機に各校どうしの交流が始まると、1900（明33）年2月には「大阪府中学校連合運動会」が北野、堺、八尾、茨木、天王寺、岸和田の6校により実施され

表 1. 「大阪の旧制中学校の創立年とその変遷」(『大阪百年史』を参考に筆者作成)

	現在	1873	1879	1884	1886	1899	1901	1902
1	北野	欧学校	大阪中学	府立大阪 中学	大阪尋常 中学	大阪府第 一中学	堂島	北野
2	三国丘					1895 第二尋常 中学	1901 堺	
3	八尾					1895 第三尋常 中学	1901 八尾	
4	茨木					1895 第四尋常 中学	1901 茨木	
5	天王寺					1896 第五尋常 中学	1901 天王寺	
6	岸和田					1897 第六尋常 中学	1901 岸和田	
7	市岡						1901 第七中学 市岡	
8	富田林					1899 第八中学	1901 富田林	
9	四条畷						1901 四条畷	
10	(池田)					1903 第十中学	1906 廃校	
11	今宮						1906 今宮	
12	高津						1918 1919 第11中学 高津	
13	生野					1920 第12中学	1921 生野	
14	豊中						1921 第13中学	
15	鳳						1922 1923 第14中学 鳳	
16	住吉						1922 1923 第15中学 住吉	
17	池田						1940 1941 第16中学 池田	
18	布施						1942 1943 第17中学 布施	

た<sup>10)</sup>。これに先立つ1899(明29)年に、岸和田中学校で前述の校長による実施のための会議があり、次の暫定的規約<sup>11)</sup>が決定された。

1. 本会は府下中学校生徒中体格強健技術優秀の者を選抜し、左の二種に付競技せしめるを目的とす
2. 競技種別：徒歩競走、距離六百米以上、及撃劍
3. 選手人員：徒歩競走六名、撃劍三名
4. 会場：各中学校番号順序をもって充つ
5. 本開会は每学期一回とし会は当番中学校より開会二週間前に報道のこと
6. 開会その他に要する費用は各中学校共同負担とす
7. 競技は1回もしくは2回とす
8. 審判長は当番中学校長とし審判は各学校職員1名宛とす  
その後正式に
  1. 600m走は各校4名で12名宛2回行う
  2. 各校特待生(学力優秀者)2名による400m走
  3. 撃劍は各校3名による三本勝負

大阪へのスポーツ移入とその発展について（第1報）一戦前の旧制中学校を窓口として（田中・新野）

表2. 「大阪へのスポーツの移入と普及一覧—明治・大正・昭和（1868～1950）」  
 （『日本スポーツ百年』『日本体育協会五十年史』『大阪体育協会五十年史』および各競技団体の周年史を参考に筆者作成）

スポーツ		年	人（組織）	場所と活動	日本協会の設立	大阪協会の設立
野球	日本への移入	1873(明6)頃	開成校ホーレス・ウィルソン	東京神田の開成校（東京大学の前身）でベースボールを指導する。	1949(昭24) 日本社会人野球協会、後に日本野球連盟となる 1927(昭2) 全日本都市対抗野球大会（神宮）	1946(昭21) 大阪に全国中等学校野球連盟を設立
	移入	1882(明15)頃	旧大阪中学校(旧三高、現京都市大)	生徒が昼休みや放課後野球を楽しんだという記録があるが、遊びの程度であろう。		
	普及発展	1893(明26)	大阪尋常中学校(現北野高)	この頃、英語教師熊本謙二郎(一高OB)が本格的に指導を行い、グラウンドは練習で白熱した。		
		1911(明44)	美津濃運動具店(現ミズノ)	大阪実業団野球団を設立し、香櫛園の野球場を本拠地として試合を行う。		
		1913(大2)	美津濃運動具店主催	豊中運動場で43チームが参加する関西学生聯合野球大会が開催された。		
		1915(大3)	朝日新聞社主催	豊中運動場で全国中等学校野球優勝大会(夏の甲子園)が、全国から勝ち抜いた10校で始まる。		
	1918(大7) 1927(昭2)	市岡高女 NHK	学童野球大会が天王寺公園で開催された。 和歌山・粉河高女と初めて試合を行う。 甲子園の中等野球大会の中継放送が始まる。			
ボート	日本への移入	1873(明6)頃	東京大学幹事服部一三	アメリカ捕鯨船のボートを購入し、学生が盛んに取り組んだ。	1920(大9) 日本漕艇協会 1920(大9) 第1回学生選手権競漕大会(隅田川)	1948(昭23) 大阪クラブ
	移入	1882(明15)頃	大坂中学校	ボートの乗船心得や艇庫の記述がみられることから、この頃から親しんでいたと思われる。		
	普及発展	1889(明22) 1897(明30)以降	大阪商業学校第一回水上運動会 高等工業学校(現大阪大学)、北野・天王寺・堺等	堂島川に艇庫を置き、9年後には、北野中学校でも水上運動会が開催された。 堂島川や狭山池で競漕に取り組まれた。		
サッカー	日本への移入	1873(明6)	イギリス海軍ダグラス少佐	東京築地の海軍兵学寮において、サッカーを紹介。	1921(大10) 大日本蹴球協会 1921(大10) 全国優勝競技大会(日比谷公園)	1921(大10) 関西蹴球協会が関西を統括
	移入	1882(明15) 1890(明20)頃	大阪中学校(旧三高) 大阪聖三一神学校(現桃山学院大学)	寄宿生が夕食後校内でプレーした。 校長のG.H. ポールがフットボールを指導。		
	普及発展	1912(大1) 1916(大5) 1918(大7)	明星商業(現明星高校) 大阪朝日新聞 大阪毎日新聞社	サッカークラブが創設される。 第3回植東体育競技会予選会が開かれ、明星商業が参加する。 全国中等学校フットボール大会、豊中運動場で始まる。“真の全国大会”となるのは、1934年の第16回大会から。		
陸上競技	日本への移入	1874(明7) 1876(明9) 1883(明16)	ダグラス中佐とイギリス顧問 ベンハロー教授とアメリカ人教師 F.W. ストレンジ	東京築地の海軍兵学寮において、競闘遊戯会が開かれた。 札幌農学校でマサチューセッツ農科大学のアスレチックスポーツを移入。 大学予備門・東京大学合同運動会を開催する。	1911(明44) 大日本体育協会 1913(大2) 第1回日本陸上選手権大会(陸軍戸山学校)	前身1922(大11) 大阪体育協会 1933(昭8) 大阪陸上競技連盟
	移入	1885(明18)頃	大坂中学校(明18) 大阪商業学校(明19) 大阪尋常中学校(明19)	運動会を行っているが、これが大阪で最初のものと思われる。		
	普及発展	1901(明34)以降 1900(明23)	小学校、中学校、師範学校、大学 北野、堺、八尾、茨木、天王寺、岸和田中学校	陸上競技とレクリエーションをミックスした運動会が盛んに行われるようになった。 府立中学校聯合運動会が八尾中学で開催された。 小学校聯合大運動会(1902年) 阪神間20哩距離競争。初めてマラソンという名称が用いられた。 豊中運動場で本格的な陸上競技会が行われた。		
		1909(明42)	大阪毎日新聞主催			
		1913(大2)	大阪毎日新聞社主催 第1回日本オリンピック大会			
		1916(大5)	大阪朝日新聞社主催 関東関西対抗競技			
		1918(大7) 1924(大13)	大阪市学堂体育研究会 健母会・中央運動社主催	鳴尾運動場において、愛知・岐阜・石川以西を関西、静岡・長野・富山以东を関東とし、それぞれやく50名の一流選手を選抜し対抗させた。 第1回陸上競技大会(宝塚運動場) 大阪市立運動場と市岡高女で日本女子オリンピックが開催された。		

庭球	日本への移入	1878 (明 11)	体操伝習所教師リーランド	アメリカからラケットとボールを取り寄せ、生徒に指導。	1922 (大 11) 日本庭球協会 1922 (大 11) 第 1 回日本選手権	1946 (昭 21) 大阪庭球協会
	移入	1868 (明 1) から 1899 (明 32)	川口居留地	居留地内にテニスコートがあり、プレーされた。		
	普及 発展	1897 (明 30) 1903 (明 36) 1904 (明 37)	大阪毎日新聞 堂島高女 オールドボーイズ庭球 倶楽部	新聞社主催のテニス大会が始まる。 公開試合を行う。 学校職員・会社員らで構成された倶楽部を創設し、中之島公園で早大チームとの男女庭球大会が開催された。		
		1908 (明 41)  1919 (大 8) 1920 (大 9)	大阪毎日新聞社  大阪時事新報社 大阪朝日新聞	浜寺公園にて関西聯合庭球大会が始まる。9 回から全国中等学校庭球大会となり、豊中中学校 18 回大会 (1926 年) で優勝。 第 1 回関西女子庭球大会が開催された。 豊中の専用コートで全国硬式庭球大会が開催された。		
バスケットボール	移入	1894~1896 (明 27~29)	梅花女学校 校長成瀬仁蔵	1890~1894 米国に留学し、帰国後生徒にバスケットボールを指導した。キリスト系女学校にのみ行われ、広く普及するにはいたらなかった。これは、大森兵蔵が 1908 (明 41) に伝えたとするより古いものである。	1930 (昭 5) 大日本バスケットボール協会 1921 (大 10) 第 1 回日本選手権	1935 (昭 10) 大阪協会
	普及 発展	1913 (大 2)  1917~1921 (大 6~10) 1926 (大 15)	F. H. ブラウン大阪 YMCA  大阪市教育局・大阪 YMCA  大阪 YMCA	中之島公園に大阪初のコートをつくり練習を行い、人々の関心を呼んだ。 大阪市教育局は YMCA に普及を養成し各地で講習会を開催。 大阪 YMCA 体育館が新築され、屋内コートで第 6 回全日本選手権大会を開催。		
水泳	日本への移入	1898 (明 31)	水府流太田派・横浜外人泳団	横浜西波止場沖外人水泳場で、百碼、四分の一哩、半哩の三種目が競われ、日本チームが優勝をかざった。	1924 (大 13) 大日本水上競技連盟	1913 (大 2) 大阪水泳協会
	移入	1905 (明 38) 1906 (明 39)	大阪毎日新聞社 浜寺水連学校・大阪毎日新聞社	大阪湾 10 マイル競泳。 関西で初の海水浴場を開場し、浜寺水連所で水泳訓練に取り組む。		
	普及 発展	1913 (大 2) 1914 (大 3)	茨木中学校長加藤達吉、杉本傳 大阪毎日新聞社	最初の本格的な学校プールを建設。  第 1 回中等学校聯合競泳大会が大阪市運動プールで開催される。		
ラグビー	日本への移入	1899 (明 32)	慶応義塾大学エドワード・B・クラークと田中銀之助	慶應義塾大学の学生にケンブリッジ大学でラグビー経験のあるクラークと田中が指導を行う。	1924 (大 13) 関東ラグビー蹴球協会	1926 (大 15) 西部ラグビー蹴球協会 1928 (昭 4) 大阪支部発足
	移入	1926 (大 15)	大阪高商ラグビー部 西部ラグビー蹴球協会	関西のラグビーは三高、同志社など京都が主流であった。 1919 (大 8) 大阪高商にラグビーチームが誕生。 1924 (大 13) 北野中学校と天王寺中学校との定期戦が始まる。		
	普及 発展	1918 (大 7)  1919 (大 8)	大阪毎日新聞社  杉本貞一、関西ラグビー倶楽部	大正 7 年第 1 回日本フットボール大会 (豊中運動場) には大阪から出場していないが、以後急速に普及した。1925 (大 14) 全国中学校大会で天王寺中学校が優勝。 杉本貞一らがラグビー倶楽部を創設し、京阪神のラグビーチームの指導に当たる。		
卓球	日本への移入	1902 (明 35)	東京高等師範学校教授坪井玄道	留学先の英国で卓球を知った坪井、木下東作らがその面白さに魅了され、道具一式を日本にも伝える。	1921 (大 10) 大日本卓球協会	1921 (大 10) 大日本卓球協会関西本部
	移入	1903 (明 36) 1906 (明 39)	日本体育会 大阪青年会	第 5 回内国勲業博覧会において卓球の模範演技。 個人優勝試合が開催される。		
	普及 発展	1916 (大 5) 頃 1921 (大 10)	YMCA、女学校 城戸尚夫、大阪毎日新聞社	YMCA の体育プログラムにピンポンがあり、府下女学校でも校内大会が開かれていた。 城戸尚夫がピンポンを卓球と命名し、日本統一ルールを制定し、大日本卓球協会を大阪に設立。		

大阪へのスポーツ移入とその発展について（第1報）—戦前の旧制中学校を窓口として—（田中・新野）

ホッケー	日本への移入	1906 (明 39)	慶應義塾大学	ウィリアム・T・グレーが学生を指導。	1923 (大 12) 大日本ホッケー協会	1918 (大 7) 大阪ホッケー倶楽部
	普及発展	1918 (大 7) 1939 (昭 14) 1946 (昭 21)	羽衣高女 国民体育大会	大阪ホッケー倶楽部誕生 全日本選手権で関西勢として初めて優勝し、女子ホッケーの伝統が関西に移る。 第1回国民体育大会に正式種目として取り入れられ、そこから全国へと普及していった。	1923 (大 12) 第1回日本選手権	
バレーボール	移入	1913 (大 2) 1915 (大 4)	F. H. ブラウン 大阪、京都、神戸、三市対抗バレーボール大会 (YMCA 中心)	神戸 YMCA に本拠を置いて大阪、京都を巡回して指導を行った。 第3回極東選手権大会に、ブラウンは関西 YMCA のメンバーを中心に出場し、バレーを全国に広めるきっかけを作った。	1927 (昭 2) 大日本排球協会が神戸で設立 1921 (大 10) 第1回日本選手権	1925 (大 14) 関西排球協会
	普及発展	1923 (大 12) 1917~1921 (大 6~10) 1918 (大 7) 1918 (大 8) 1919 (大 8) 1924 (大 12)	神戸高商多田徳雄 大阪市教育局・大阪 YMCA 大阪毎日新聞社	第6回極東選手権大会。 大阪市教育局は YMCA に普及を養成し各地で講習会を開催。 府下少年部バレーボール大会 (玉造小学校) 府下中等学校バレーボール大会 (中之島) 日本で初の兵庫県女子中学校バレーボール競技会。 第1回女学校バレーボール大会、大手前高女で始まる。		
ハンドボール	日本への移入	1922 (大 11)	大谷武一ドイツより持ち帰り紹介	日本体育学会夏期講習会において紹介。	1938 (昭 13) 日本ハンドボール協会	1938 (昭 13) 大阪ハンドボール協会
	普及発展	1936 (昭 12) 1946 (昭 21)	大阪府学務課 国民体育大会	送球競技規則を発行し普及に努める。 一般・学生・中学の各所で東軍を圧倒する		

#### 4. 柔術は各校2名による一本勝負

である。

こうして第1回大会は、八尾中学校で開催された。翌年には市岡、富田林が、1903 (明36) 年には四条畷、今宮が加わり10校となり、以後参加校は増えていった。

なお、『北野百年史』<sup>12)</sup>には現在の運動クラブに相当する活動がいつ頃から始まったとは明記されていないが、1900 (明33) 年頃には野球、漕艇、庭球、脚球 (サッカー)、水泳、柔道、剣道が盛んという記述がある。また、『三丘百年』<sup>13)</sup>には野球、水泳、端艇 (ボート) が盛んであったこと、『八尾高校百年史』<sup>14)</sup>には、1910 (明43) 年に、庭球、野球、蹴球、銃剣術、弓術、水泳の名がある。運動会の出場者は、これらのクラブに所属していた学生から選抜されていた。

#### ②水泳

『北野百年史』<sup>15)</sup>によると、1884 (明17) 『文部省第一二年報』の『大阪年報』には中学校と師範学校において、「本年ヨリハ歩兵操練并水泳ノ両科ヲ実施セリ」と述べ、水泳に積極的に取り組むことが通達されている。遊泳科の実施経過や指導者についての記録がないが、堂島川岸に校舎があった大阪中学の時代では、堂島川で水泳の授業が行われていた。その頃の堂島川は「田蓑橋の上流で学校水泳をやらされ (中略)、川底が砂の非常にきれいな川であった。」との回顧録が残されている。後年、桜宮や堺の湊浜でも行われるようになった。これらの指導には、北野中学に初めて野球を伝えたといわれる玉井瑳一が担当

していた。このように、水泳は茨木中学校に日本初の学校プールができる1913（大2）年までは川や海で取り組まれていたが、水質悪化に伴い海浜やプールへと移っていった。

### ③野球

大阪最初の学生野球の試合は、1893（明26）年尋常中学校（現、北野高校）と同志社との間で行われた<sup>16</sup>。明治20年まで体操教員の玉井瑳一が野球を伝え、その後、一高で野球に親しんだ英語教員の熊本謙二郎が本格的に生徒を鍛えたといわれている。しかし、道具もままならず、剣道の面をキャッチャーマスク代わりとし、捕手ですらミットがなく素手でボールを取るといった様相であった。そうした状況であっても、「本日、ボールヲ弄スルハ放課後ニ限ルヘキコトヲ揭示ス」という警告が出されるほど生徒は野球に熱中した<sup>17</sup>。そして、1894（明27）年には、市立大阪商業学校に初めて勝利する<sup>18</sup>までに成長している。ちなみに、当時は「底球」と呼ばれ、必ずしも「野球」という名称が普及していたわけではなかった。

1901（明34）年には、京都一中、神戸中学、丸亀中学、天王寺中学、堂島中学（北野）が集う『関西五中リーグ』が開催されるまでに野球は発展したのである<sup>19</sup>。

さらに、1907（明40）年には、戦前のおお阪を沸かすきっかけとなって現在も続く市岡中学校との定期戦が始まっている<sup>20</sup>。

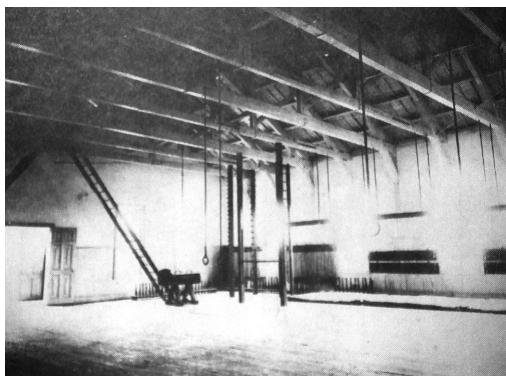
### ④漕艇（ボート）

大阪のボートの歴史は、1882（明15）年頃のおお阪中学校までさかのぼることができる<sup>21</sup>。ここでは室内体操室が設けられるとともに、現在の体育クラブに当たる運動会が組織されている。ボートの乗船心得や艇庫の記述があることから、堂島川でボートを漕いでいたことがわかる。

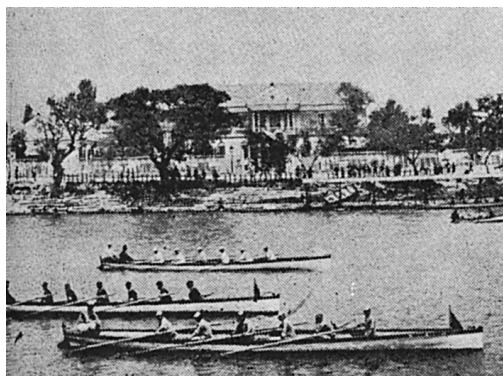
『北野百年史』<sup>22</sup>には、1898（明31）年端艇競漕が一大流行期に入り、生徒が寄付を募り、新艇を学校に寄付したという記述がみられる。同年、北野中学は琵琶湖で開催された第一回全国連合競漕会に参加し一位となるなど競漕は堂島川で盛んに取り組まれていた。同じ時期に五中（北野中学校の人数増を解消するため市内の中学生を分割し設置された：現、天王寺高校）においても漕艇が盛んに取り組まれ、中之島で覇を競っていたという。

1900年（明33）には、北野中学校第一回水上運動会が堂島川で開催された。同時期に第二尋常中学校（現、三国ヶ丘高校）においても水上運動会が大浜で開かれており<sup>23</sup>、この頃のボートの隆盛がしのばれる。





「大阪中学校体操場」



「堂島校舎の前で訓練する端艇部員」  
（出所：『北野百年』より）

## ⑤ その他のスポーツ

明治30年代から陸上・野球・ボート以外に盛んに取り組まれたスポーツが、庭球とフットボールである。

庭球は、1900（明33）年に北野中学校で庭球団第一回大会が<sup>24)</sup>、1903（明36）年に二回目が開催され、天王寺中学、医学校、師範学校、高等商業学校などが参加している。こうした普及の成果は、日本初のオリンピックメダリストである柏尾誠一郎（北野中学校から東京高等商業学校（現一橋大学）に進み、卒業後、1920年のアントワープ五輪において、男子ダブルスで熊谷一弥とのペアで日本人初のオリンピック・メダルを獲得した）を生み出すことになった。

フットボールは、『北野百年史』にはサッカーかラグビーかどちらという記述はない。しかし、ラグビーが大阪で盛んになるのは大正に入ってからであり、1923（大12）年に蹴球部という名称でラグビー部が設立されていることから<sup>25)</sup>、このフットボールはサッカーであったと考えられる。ラグビーは1891（明24）年大阪で最初のラグビー部を設立した天王寺中学校との定期戦が1892（明25）年に始まり、その後、1942（昭17）年の全国中等ラグビー大会で優勝するほど盛んに取り組まれていた。なお、北野と天王寺の定期戦は2012年に90回を数えるまで現在も継続されている。

## （2）大阪の野球

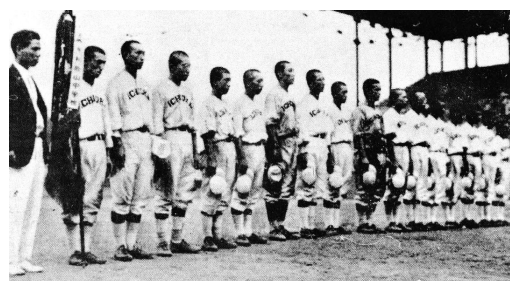
学生から始まった野球は、明40年頃には第三高等学校主催の関西連合野球大会も開催され、堺中学の活躍とともに、多くの中学校で盛んに取り組まれていた<sup>26)</sup>。

1911（明43）年にはスポーツ用品の美津濃（現、ミズノ）が大阪周辺の野球好きを集めて大阪実業野球大会を開催するまでに普及していた。さらに、美津濃は1913（大2）年に、

市岡中学、早稲田大学出身の佐伯達夫の協力を得て豊中運動場で43チームが出場する関西学生野球連合大会を開催した<sup>27)</sup>。

この組織と運営を譲り受けた大阪朝日新聞社は、1915（大4）年に全国中等学校優勝野球大会（現在の夏の甲子園）を豊中運動場で開催したのである。

朝日新聞は7月1日に大会開催を報じ、準備期間1ヶ月というあわただしさの中での開催であったため、近隣の府県の学校を回って参加チームを募ったが快い返事が得られなかった。かえって四国や九州の方が「旅費を出して大阪へ招くか」と好感をもって迎えられた<sup>28)</sup>。



「市岡中学の甲子園準優勝1934（昭9）年」  
（出所：『大阪百年』サンケイ新聞社より）

今では考えられないことであるが、同時期、系列の東京朝日新聞が野球害毒論のキャンペーンを張っていたため、関東では地方予選の開催すら危ぶまれている状況であった。この窮状を救ったのが早稲田大学出身の押川春浪らを中心とした「天狗倶楽部」<sup>29)</sup>であった。天狗倶楽部は予選を開催し、早稲田実業を関東代表として送り出した。

さらに、朝日新聞は以下に示す「審判は最終とす」から始まり、「試合用ボール以外の器具は各自持参すべし」からなる11項目の規程を新聞に掲げ、規則も周知させなければならなかった。

「朝日新聞に掲載された試合規則」

1. 審判は最終とす

1. 審判は審判長副審判長及び審判員若干名を以て之を行う

1. 試合番組は抽選を以て決す

1. 抽選の結果相手方なきチームを勝者と看做す

但一度抽選に依りて勝者となりたる者は次回に於いて抽選勝者たることを得ず相手方の棄権に依り不戦勝者となりたる場合亦之に準ず

1. 審判長に於いて不正行為ありと認めたるチームは之を除外す

1. 試合予定時刻は励行す

但前回の試合終了せざる時は次回に移る

1. 出場選手は必ずユニホーム着用の上試合開始予定時刻より少なくとも三十分前に来場すべし

1. プレーヤースベンチに着席するものは選手十一名に限る

大阪へのスポーツ移入とその発展について（第1報）一戦前の旧制中学校を窓口として―（田中・新野）

1. 試合用球は荒目縫試合用2号ボールとし全部本社において之を提供す

1. ウィニング球は之を勝者に与ふ

1. 試合用球以外の器具は各自持参すべし

これがベースとなって、「最新野球規則」が制定されている。そして、この急造ルールがきっかけとなり翌1916年に81カ条からなる新野球規則が制定されるとともに、日本審判協会も結成された。

1915（大4）年の予選会に参加したチームは、全国10の地方73校で、その中から以下の10校が代表となった。

東北	秋田中学	関東	早稲田実業
東海	山田中学	京滋	京都二中
阪奈和	和歌山中学	兵庫	神戸二中
山陰	鳥取中学	山陽	広島中学
四国	高松中学	九州	久留米商業

第1回大会では京都二中が2対1で秋田中学を破り優勝したが、この時からすでに現在と同様に女性の観客やかち割り氷が登場している。

一方、1924（大13）年4月には大阪毎日新聞が全国選抜中等学校野球大会（現在の春の甲子園）を名古屋の山本球場でスタートさせた<sup>30</sup>。この年に東洋一の甲子園球場が開場され、春夏の大会は甲子園球場で開かれるようになり、野球熱が全国的となった。

戦前の中学校野球大会は春が18回、夏が26回の計34回開かれた。大阪代表として市岡中学が春夏合わせて16回（ベスト4以上が4回）、次に八尾中学が春夏合わせ7回（ベスト4に1回）出場する活躍を見せ、さらに、北野中学、堺中学（現、三国丘高校）も出場を果たし、公立中学校の頑張りが注目された。

一方、私学では、浪華商業（現、大阪体育大学浪商高校）が10回（このうちベスト4以上に2回）、明星商業が3回出場している。これらの高校が古豪と言われる由縁である。

### （3）大阪の陸上競技

「大阪府中学校連合運動会」は、当時大阪における最大のスポーツイベントであったが、学校対抗に熱中しすぎる弊害が表れ、1913（大2）年に中止された。しかし、2年後には「新生第1回大阪府中学校連合運動会」として復活している。新しい大会は勝敗にこだわらず、学校対抗を廃するとともに、参加者を各校500名程度にするためトラック種目では200m、800m、1500mが追加された。ところが、学校対抗を廃したために緊張感のないものになり、1日を費やして府下全中学生が集まる意義がないとの理由で1918（大7）年に

中止された<sup>31)</sup>。

1922（大11）年に、翌年の第6回極東選手権大会の主管を果たすべく大阪体育協会が結成されるとともに、協会主催で「大阪府下中等学校陸上競技大会」が寝屋川運動場で開催された。会場はその後市立運動場へ移り、主催も、大阪府、大阪府体育運動連盟と移管されながら1941（昭16）年まで続き、多くの学校で1・2年生が遠足を兼ねて応援に参加し市立運動場は大盛況であったという<sup>32)</sup>。

大阪での本格的な陸上競技の始まりは、1913（大2）年に豊中運動場で開催された大阪毎日新聞社主催による日本オリンピック<sup>33)</sup>からであるといつてよい。2年後の1915年には大阪朝日新聞主催で「陸上競技練習会」<sup>34)</sup>が豊中運動場で開催された。この講習会はオリンピック選手らが講師となり、春夏の2回500人近い受講者を集め昭和4年まで27回続き、陸上競技の普及に大きな役割を果たした。

#### （4）大阪の庭球

庭球は、明治初期から川口居留地で行われ、中期から中学校や高等女学校で盛んに取り組まれていた<sup>35)</sup>。その結果、1897（明30）年ごろから大阪毎日新聞社主催のテニス大会が開催されるようになり、1908年（明41）には浜寺公園で大阪毎日新聞主催の「関西聯合庭球大会」が始まり、10年後に「全国庭球大会」と改称され、1940（昭15）年まで続いた<sup>36)</sup>。

この大会では、1925（大14）年の第18回大会に学校創立わずか4年目の豊中中学の桑原孝夫・宮脇光夫ペアが優勝している。その後、豊中中学は1928（昭3）年、1931（昭6）年、1940（昭15）年にも全国大会で準優勝以上の成績を残している<sup>37)</sup>。また、堺中学も1934（昭9）年から38年にかけて優れた成績を残した<sup>38)</sup>。

1924（大13）年には、浜寺に5千人収容のテニスコートが完成し、「第1回全国女子中等学校庭球大会」が開催されるまでになった<sup>39)</sup>。

#### （5）大阪のフットボール

1917（大7）年大阪毎日新聞社は、「第1回日本フットボール大会」を豊中運動場で開催した<sup>40)</sup>。これが、現在の全国高校サッカー選手権大会および全国高校ラグビーフットボール大会のルーツである。

##### ①サッカー

サッカーでは、1912（大1）年創部の明星商業のほか、1915（大3）年創部の堺中学（現、三国丘高校）、天王寺師範・池田師範（現、大阪教育大学）が活躍した<sup>41)</sup>。

大阪へのスポーツ移入とその発展について（第1報）—戦前の旧制中学校を窓口として—（田中・新野）

大阪でのサッカーの始まりは、1882（明15）年頃、大阪中学校（のちの三高、現、京都大学）で行われた記録が残っている。さらに、1890（明23）年頃、川口にあった聖三一神学校（現、桃山学院高校）のポール校長が生徒を指導したとある<sup>42)</sup>。この頃のサッカーは、地面のボールは脚で扱うが宙のものはキャッチしてゴールへ投げ込むといった様相であった。

『明星サッカー 60年史』<sup>43)</sup>によると、明星商業の学生は、大正元年大阪で最初にサッカー部を創立し、指導者がいなかったにもかかわらず熱心に取り組んでいたという。学生がたまたま書店で『How To Play Soccer』という本を見つけ内容を確認すると、サッカーのことであったがSoccerの発音が判らなかつた。そこで、アメリカ帰りの同志社の速水氏にたずねたところ、サッカーと発音しアソシエーションフットボールの俗語だと教えられたという。卒業生はこの「サッカー」の語を用いた「大阪サッカークラブ」を組織し、中等学校フットボール大会の運営を助けるとともに、多くの大会にチームとして参加した。その結果、大正末期の極東選手権大会代表となるなどの大活躍が、「サッカー」という名称を広めたのである。

ちなみに、日本で最初にサッカーボールを蹴ったのは、1873（明6）年、東京築地の海軍兵学校のダクラス少佐とその33人の部下というのが通説である<sup>44)</sup>。しかし、その2年前の神戸居留地の英字新聞『HIOGO NEWS』3月1日版には、「フットボールの試合が行われる。選手は試合に遅れないように」という記事が掲載されている<sup>45)</sup>。これがサッカーなら、定説より2年前に行われていたことになる。

## ②ラグビー

ラグビーは、1899（明32）年、慶応大学の英語教師エドワード・プラムウェル・クラークが、ケンブリッジ大学でラグビーを体験した田中銀之助の協力で学生に指導したのが始まりである。その11年後の1910（明43）年に第三高等学校、翌年に同志社にチームが誕生した<sup>46)</sup>。両チームは互いに覇を競い合いながら関西にラグビーを普及させる原動力となった。

さらに、慶応出身の杉本貞一が中心となってラグビーの普及に務めた結果、東京を上回るチーム数を見ることになった。杉本はさらなる発展を期すために、毎日新聞に働きかけ、1917（大7）年に第一回「日本フットボール優勝大会」を開催することになった<sup>47)</sup>。

フットボール大会では当初、旧制高校や大学からの参加もあったが、第3回大会から中学生のみの大会となった。初期は同志社中学や京都一商の京都勢が優勝していたが、1922（大11）年創部の天王寺中学が1924（大13）と27年に準優勝を果たす頃から次第に大阪勢

も強くなり、1941（昭16）年に北野中学が、翌1942（昭17）年には天王寺中学が全国優勝するまでになった<sup>48)</sup>。戦後も続く大阪高校ラグビーの伝統は、ここで築かれた。

## （6）大阪の水泳

日本初の水泳プールを1913（大2）年に建設したのが茨木中学である<sup>49)</sup>。

建設のきっかけは、水泳の授業が希望者に限り堺の海岸でお茶を濁す程度のものであったものを、加藤逢吉校長が「金のある者だけがやる教育は邪道だ」<sup>50)</sup>と指摘したからといわれている。このプールは、杉本傳の指導のもと生徒の手によって作られた。

そして、茨木中学校は杉本の熱心な指導でクロール泳法に取り組み、1919（大8）年伊豆の戸田で開催された東京大学全国競技会において大活躍する。午前中は初参加の茨木中学に対する「茨中侮るべからず」という評価が、午後には「恐るべし」に変わったという<sup>51)</sup>。

200m自由形に大会新で一着に入った2年生の入谷唯一郎は、全コースをクロールで泳ぎ切り、クロールは50mだけの泳法と信じていた他チームを仰天させた。4年生の吉田敬吉、3年生の石田恒信、2年生の高石勝也、松土竜太郎も体格では上まわる大学生、社会人を小気味よく抑え、最終の800mリレーを待たず総合優勝を決めた。

こうして、茨木中学の水泳部は、大学生を破り、全国に名をとどろかすのである。茨木中学水泳部の活躍はその後も続き、1923（大12）年に大阪で開かれた第6回極東選手権大会の日本選手団に半数にあたる16人を送り、総得点の半分以上を獲得し我が国の初優勝に大きく貢献した。

さらに、第8回～11回のオリンピックに、杉本（コーチ）を含み8人（延べ15人）を



「優勝旗を持つ茨木中学の生徒」（出所：『大阪春秋』より）



「プール建設に励む天中生」（出所：『大阪100年』より）

大阪へのスポーツ移入とその発展について（第1報）一戦前の旧制中学校を窓口として―（田中・新野）

送り出している。杉本はパリオリンピック後の海外視察以来、日本に飛び込み、水球を導入した。茨木中学の水球は、1933（昭8）年第一回水球東西対抗戦に優勝し、五連覇を達成するまでに成長していった<sup>52)</sup>。

なお、天王寺中学が茨木中学に続き1924（大13）年に大阪で2番目のプールを生徒たちの手で建設している。

### （7）大阪のバレーボール

バレーボールが本格的に行われるようになったのは、1913（大2）年YMCA体育主事のF.H.ブラウンの功績によるものである<sup>53)</sup>。彼は、神戸に拠点を置いてバレーボールの普及に努めた。

バレーボールが全国に広まるきっかけは、1917（大6）年に東京で行われた第3回極東選手権競技大会であった。ブラウンは各YMCAからバスケットボール選手、陸上競技選手などの教え子を集め、事実上関西のYMCAを中心とするチームを編成し参加した。試合は大敗したが、観戦に集まった体育指導者がバレーボールに大きな興味を持ち、帰郷して広めることになったのである。その一人が広島高等師範学校（現、広島大学）の河津彦四郎<sup>54)</sup>であった。そして、彼の教え子であった多田徳雄は高等師範卒業後、神戸高等商業学校（現、神戸大学）に教師として赴任し、バレー専門のチームを結成し、神戸高商の黄金時代を築いている。

神戸高商は、1923（大12）年の第6回極東選手権大会の代表となり、その後の極東選手権大会においても代表のほとんどが神戸高商の学生で占められていた<sup>55)</sup>。

こうした土壌に加え、1917（大6）年頃から大阪市教育会体育奨励部が市内の各小学校でバレーボールの普及に努め、1919（大8）年には中之島運動場で府下中等学校バレーボール大会が行われるまでになった<sup>56)</sup>。

このような努力が、1927（昭2）年、神戸に大日本排球協会が設立<sup>57)</sup>されたことに結びつき、翌28年に全日本選手権が甲子園で開催されている。そして、関西のバレーボールの隆盛は戦後に引き継がれ、大松博文率いる日紡貝塚バレーボールチームを誕生させるとともに、大阪が全国のバレーボール界を育てる一翼を担ったのである。

### （8）大阪のバスケットボール

日本のバスケットボールは、成瀬仁蔵が梅花女学校校長時代の1894～1896（明27～29）年に女子学生に教えたのが始まりである<sup>58)</sup>。一方、普及にはバレーボール同様YMCAのF・H・ブラウンが尽力した。

1917(大6)年から27年にかけて、大阪市教育局の要請を受けた大阪YMCA体育部は、バスケットボールの普及講習会を大阪市内各地で開催した<sup>59)</sup>。

1924(大13)年第1回中等学校選手権大会には、大阪YMCAに設立された中外商業(1922(大11)年に設立された後尼崎に移転し、現在は県立尼崎北高校)が優勝している。その後も大阪商業、高津中学等が出場している。1939(昭14)年頃からは西野田職工学校(現、西野田工科高校)が頭角を現し、1940(昭15)年の紀元二千六百年記念大会として甲子園で始まった全国中学校大会で優勝している<sup>60)</sup>。

## (9) その他のスポーツ

### ①ハンドボール

日本のハンドボールは、1922(大11)年に欧米から帰った東京高等師範学校の太谷武一が紹介したことから始まる。国内では、1937(昭12)年に、1940(昭15)年の東京オリンピック招致の一環としてハンドボールのルールを全国に配布したことから広まった<sup>61)</sup>。

八尾、茨木、天王寺、生野、豊中等の中学校で盛んに取り組まれたが、特に豊中中学(現、豊中高校)は、1940(昭15)年に送球部を設立し、馬場太郎(元大阪体育学会会長)の指導で翌年には関西大会、そして1942(昭17)年には全国制覇するまでになった。この伝統は戦後も続き、国民体育大会や東西対抗で活躍することとなった<sup>62)</sup>。

### ②剣道日本一の中学校

豊中中学校では、創立以来正課の授業で剣道が取り上げられていた。1913(大12)年から始まった寒稽古の影響もあり、徐々に上達し、1940(昭15)年には、大日本武徳会の昇段試験に300余名の生徒が挑み、そのうち7割以上が昇段を果たしている。その結果、有段者は実に100名を超えたという<sup>63)</sup>。

## まとめ

大阪は、水泳、野球、陸上競技、サッカー、ラグビー、バレーボールなど多くのスポーツにおいて、それまでになかった中等学校による全国的な大会を開催することなどによって日本のスポーツの発展に対し多大な貢献を果たしている。しかし、その評価は、決して高いものではない。なぜなら、スポーツ史に関する文献は、東京を中心としたものが多いからである。本研究は、その不足を補うとともに、日本のスポーツの発展が、一極集中でなく多くの地域での多様な取り組みによって成立していることを明らかにしたものであ



大阪へのスポーツ移入とその発展について（第1報）—戦前の旧制中学校を窓口として—（田中・新野）  
る。

- ① 明治期に移入されたスポーツは、当初は外国人教師やその影響を受けた教師が旧制中学の学生に伝達することから始まった。陸上、ボート、野球から、庭球、フットボール、大正期にはバレーボール、バスケットボールと種目を広げながら普及していった。
- ② スポーツは外国人居留地においても行われ、学校以外の場においてもスポーツの普及に取り組まれた。
- ③ スポーツ大会は当初学内で行われ、次に学校同士の対抗試合、さらに、いくつかの学校による連合大会へと形態を変化させていった。その結果、大阪では野球、サッカー・ラグビー、庭球など全国規模の中学生大会が新聞社の主催で開催されるようになり、その参加の大部分は、公立中学校の生徒達であった。これらの大会が学生以外の市民の関心を高める契機となり、さらにスポーツの普及に寄与することになった。

以上のことから、大阪は、日本初の全国規模の大会を開催するとともに、学校プールの造営など他の地域より先んじた取り組みによって、日本のスポーツの普及と発展に貢献した。なお、文末に前述した旧制中学校の設立年とその活躍をまとめた。

## 文 献

- 1) 佐藤信一（1954）『大阪スポーツ史』大阪市体育厚生会
- 2) 白銀茂夫（2003）『なにわのミニスポーツ史』丸善(株)大阪出版サービスセンター
- 3) ベースボールマガジン社（1993）『激動の昭和スポーツ史⑧ [テニス]』
- 4) 今村嘉雄（1967）『一九世紀に於ける日本体育の研究』不昧堂書店，pp.958-968.
- 5) 高橋孝蔵（2012）『倫敦から来た近代スポーツの伝道師』小学館，p.186.
- 6) 大阪府（1968）『大阪百年史』，pp.251-253.
- 7) 日本体育協会（1970）『日本スポーツ百年』，p.154.
- 8) 北野百年史刊行会（1973）『北野百年史』，pp.241-242.
- 9) 大阪府立八尾高等学校創立100周年記念会『百年誌』編集委員会（1995）『八尾高校百年誌』，p.611.
- 10) 高塚泰次郎（1992）『明治・大正・昭和前期の大阪陸上競技史—その源流と昭和隆盛期への経過を探る—』大阪体育大学紀要第23巻，pp.107-168.
- 11) 前掲，北野百年史刊行会『北野百年史』，pp.481-482.
- 12) 同上，『北野百年史』，pp.488-490.
- 13) 大阪府立三国丘高等学校創立百周年記念事業委員会（1995）『三丘百年』pp.69-72.

- 14) 大阪府立八尾高等学校創立100周年記念会『百年誌』編集委員会（1995）『八尾高校百年誌』
- 15) 前掲, 北野百年史刊行会『北野百年史』, pp.188-189.
- 16) 大阪市史編纂所（1934）『明治大正大阪市史』第1巻, p.634
- 17) 前掲, 北野百年史刊行会『北野百年史』, pp.294-297.
- 18) 同上書, 『北野百年史』, p.314.
- 19) 同上書, 『北野百年史』, p.621.
- 20) 前掲, 白銀茂夫『なにわのミニスポーツ史』, pp.85-86.
- 21) 同上書, pp.65-66.
- 22) 前掲, 北野百年史刊行会『北野百年史』, p.621.
- 23) 前掲, 府立三国丘高校百周年記念事業委員会『三丘百年』, pp.94-95.
- 24) 前掲, 北野百年史刊行会『北野百年史』, p.477.
- 25) 同上書, pp.892-894.
- 26) 前掲, 府立三国丘高校百周年記念事業委員会『三丘百年』, p.92.
- 27) 大西梅夫編集（1974）『スポーツは陸から海から大空へ』ベースボールマガジン社, pp.120-125. 301-345.
- 28) 朝日新聞百年史編集委員会（1991）『朝日新聞社史 大正・昭和戦前編』朝日新聞社, pp.51-56.
- 29) 小野瀬剛志（2002）『野球害毒論（1911年）に見る野球イデオロギー形成の一側面—「日本のスポーツ観」最高試論—』スポーツ史学研究, pp.61-81.
- 30) 毎日新聞130年史刊行委員会（2002）『『毎日』の3世紀—新聞が見つめた激流130年（上巻）』毎日新聞社, pp.653-657.
- 31) 前掲, 高塚『明治・大正・昭和前期の大阪陸上競技史』
- 32) 同上書
- 33) 財大阪体育協会（1997）『大阪体育協会五十年史』, p.21.
- 34) 前掲, 高塚泰次郎『明治・大正・昭和前期の大阪陸上競技史』, p.125.
- 35) 前掲, 白銀茂夫『なにわのミニスポーツ史』, pp.49-51
- 36) 前掲, 毎日新聞『『毎日』の3世紀—新聞が見つめた激流130年（上巻）』
- 37) 創立80周年記念事業実行委員会（2001）『創立80周年記念誌』大阪府立豊中高等学校, p.32.
- 38) 三丘体育会編集委員会（1977）『三丘スポーツ史』三丘体育会, pp.21-22.
- 39) 前掲, 白銀茂夫『なにわのミニスポーツ史』, pp.52-55.
- 40) 前掲, 毎日新聞『『毎日』の3世紀—新聞が見つめた激流130年（上巻）』, p.658-661.
- 41) 全国高等学校体育連盟サッカー専門部編・著（2012）『高校サッカー90年史』講談社,

pp.29-32.

- 42) 関西サッカー協会（2006）『関西サッカーのあゆみ』 pp.29-30.
- 43) 明星サッカー 60年誌編集委員会（1973）「明星サッカー 60年史」 pp.7-24.
- 44) 後藤健生（2007）「日本サッカー史 日本代表の90年」 双葉社 pp.20-28.
- 45) 前掲書， 関西サッカー協会『関西サッカーのあゆみ』， p.50.
- 46) 財日本体育協会編「日本スポーツ百年」（1970）日本体育協会， pp.409-411.
- 47) なにわのスポーツ研究会編「なにわのスポーツ物語」（2013） pp.205-206.
- 48) ベースボールマガジン（1981）『激動の昭和スポーツ史⑬ラグビー』， pp.49-50.
- 49) 相沢正夫（1981）「ニッポン第1号記録100年史」 講談社， p.155.
- 50) 杉本伝（1965）「泳ぎと歩き」 久敬会， pp.12-13.
- 51) 同上書， pp.20-21.
- 52) 同上書， pp.96-98.
- 53) 多田徳雄（1931）「排球競技法」 一成社， pp.56-58.
- 54) 同上書， p.218.
- 55) 同上書， pp.59-60.
- 56) 前掲， 白銀茂夫『なにわのミニスポーツ史』， p.111.
- 57) 同上書， p.70.
- 58) 同上書， p.133.
- 59) 同上書， pp.105-106.
- 60) 大阪体育協会「大阪バスケット協会70周年記念誌」 大阪体育協会， pp.14-16.
- 61) 財大阪体育協会『大阪体育協会五十年史』， pp.280-285.
- 62) 大阪府立豊中高等学校，『創立80周年記念誌』 p.44.
- 63) 同上書， p.43.

表3. 旧制中学校の変遷とスポーツの活躍  
 (『大阪百年史』『大阪体育協会五十年史』および各スポーツ連盟協会史より筆者作成)

		年代								
		明治			大正		昭和			
		第2次世界大戦前								
	1870	1880	1890	1900	1910	1920	1930	1940	校名	
公立	欧学校 73年	私立中学校80年	野球対抗試合始まる(対同志社) 93年	第1回水上運動会始まる 00年	鴻巣吾老第8回日本陸上競技選手権大会において高跳・幅跳びで優勝 19年	柏尾誠一郎アントワープ5輪で日本初の銀メダル(テニス) 20年		全国ラグビー優勝 41年	北野	
	東進級学校・西進級学校 74年	師範学校別科大阪府中学校 81年	第一尋常中学校 95年	府立北野中学校 02年						
	第一番中学校77年	府立大阪中学校 84年		市岡中学校と野球定期戦始まる 07年		天王寺中学校でラグビー定期戦始まる24年				
	府立大阪中学校 79年	大阪尋常中学校 86年	大阪府第一中学校99年							
			校内運動会始まる 89年							
				第二尋常中学校 95年	連合	全国中等学校水泳大会3000mリレー優勝 17年		全国庭球大会単・複優勝 34年	庭球・蹴球で活躍	三国丘
				第三尋常中学校 95年	第1回中学校連合運動会会場 00年	← 全国高校野球・選抜野球8回出場 →				八尾
				第四尋常中学校 95年	運動会参加	水泳場 完成 13年	第4回東大戸田水泳大会優勝 20年	ロサンゼルス5輪水泳に4名出場 32年		茨木
						第6回極東オリンピックに16名出場 23年	水球東西対抗優勝 33~37年			
				第五尋常中学校 96年			全国ラグビー準優勝 24・27・28年		全国ラグビー優勝 42年	天王寺
				第六尋常中学校 97年		松浪嘉一第8回日本陸上競技選手権大会において中学100m優勝 19年	中澤米太郎第8回オリンピック予選会で棒高跳び優勝 24年			岸和田
				第七中学校 01年		← 春・夏合わせ21回の甲子園出場(硬式野球) →				市岡
			府立職工学校 06年					全国バスケット優勝 40年	西野田工科	
						第十三中学校 21年		全国ハンドボール優勝 42年	豊中	
						全国庭球大会優勝 26年				
						第3回全国バスケット優勝 26年				
私立		聖三一教会英語学校 84年	桃山学院 95年 サッカーの記録有		桃山中学校02年				桃山学院	
			明星学校98年	明星商業学校 02年	サッカー部創設 12年 全国野球3回出場	← 全国サッカーで準決勝以上8回 →				明星
						浪華商業実修学校21年	選抜野球優勝 37年	全国野球4回出場	大阪体育大学 浪商	

全国ラグビー: 全国フットボール大会ラグビー式の部・全国蹴球大会 全国サッカー: 日本フットボール大会・全国中等学校蹴球選手権大会 全国野球: 全国中等学校優勝野球大会  
 選抜野球: 選抜中学校野球大会